

エントリー学校名：広島県庄原市立山内小学校

活動名：イキイキ学校経営計画！ ～自ら考え創造する職員室に～

解決すべき課題：

1. 学校経営計画が教職員一人一人のものになりにくく、見通しがもてていない、具体的な計画が立てられていないといった課題がある。何をめざし、何を重点的に取り組み、どんな手法を用いれば学校経営目標に迫れるのかを共通理解できるようにし、一人一人が見通しをもって業務を遂行できるようにする。
2. その中で、地域の素材・人材を活用した活動や、地域貢献につながる活動が不十分である。地域と協働した学校づくりを職員全体が意識化できるようにする。

目標・方針：

1. 教職員によるダイアログをもとにした学校経営計画を策定することで目標や目的を共有する。
2. 取り組みを焦点化し、分かりやすく見通しがもてる取り組みを共有することで、行動や方法を共有する。
3. 地域との対話や地域にある学習素材に触れることで教育内容の方向性を共有する。

活動内容：

1. 大まかな方針を示す
 - ・ 何を育てるか（社会情勢、求められる自立・協働・創造の力）
 - ・ 特に、どんな教育内容を創造していくか（児童主体、対話、地域活用）
 - ・ 取組の焦点化・共有化を（学校自己評価表の活用）
2. 職員によるダイアログ（対話・熟議）を実施する
 - (1) 「本校で育てたい資質・能力」を教職員のダイアログにより設定
 - ・ 求められている「自立・協働・創造」を軸に、児童実態や指導課題を兼ね合わせて検討し、本校で育てたい資質・能力を「志向力・協働力・創造力」の3点に整理。
 - ・ 育てたい資質・能力に対応する評価表を作成し、授業研究に生かす。
 - (2) 育てたい資質・能力について全校児童に説明したり、授業の中で意識させたりして、児童と共有。
3. 各部の取組を焦点化・具体化する
 - (1) 分掌ごとに活動を具体化
 - ・ 「自学」の取組、模擬テスト・活用問題の作成、単元開発地域合同会議・フィールドワーク・体力テストリベンジウィークの実施など
 - (2) 学校評価自己評価表の活用
 - ・ 焦点化、具体化
 - ・ 評価方法の改善
 - ・ 毎回の学校評議員会・学校関係者評価委員会において、各主任が説明
4. 地域との対話、地域活用を進める
 - (1) 地域との「座談会」を開催
 - ・ 地域課題（少子高齢化・都市流出・地方衰退）の共有
 - ・ 地域創生に取り組む事例の紹介

- ・ 「地域の未来を切り拓く力を育てる」を目標として共有
 - ・ 学校と地域が協働してどんなことができるかダイアログ
- (2) 地域との単元開発合同会議を開催
 - ・ 20年間続いた稲作体験学習を発展的に終了し、新たに地域素材を生かした探求活動の案を検討
 - (3) 職員フィールドワーク
 - ・ 地域の史跡や遺構を地域の方に案内していただいて教職員フィールドワークを実施
 - (4) 総合的な学習の時間の単元開発シート、指導ポートフォリオの作成

活動の成果：

1. 主な成果
 - (1) 全職員でのダイアログの場を設けたこと、育てたい資質・能力を児童と共有したことにより、授業や行事、各部の活動の1つ1つに一定の方向性をもって進めることができ、児童の変容につながっていった。
 - (2) 学校自己評価表を活用して取組を焦点化したことにより、毎回の企画委員会の場で、各部の活動の成果と進捗状況を確認し合いながら進めることができた。
 - (3) 地域素材を生かした探求活動について地域の方を交えて対話する場面を設けたことで、地域の学校教育への理解が進んだとともに、総合的な学習の時間の単元開発に取り組む職員が増えてきた。
2. 最も成果が表われた取組
 - ・ ダイアログを基に、全学年で「自学」に取り組み、成果を得ることができた。「学ぶことの楽しさ」を感得させるために、自分の興味のある事について毎日ノート1ページにまとめさせ、定期的に全校で互いに交流し合う場を設けた。また、その様子を地域へ公開し、主体的・意欲的に取り組んでいる児童の姿を通して保護者・地域、各教育関係者から高い評価を受けた。(肯定的評価 97%)
3. 参観日や地域公開研究会の際に寄せられた主な声
 - ・ 子供の興味関心を引き出し、発表まで昇華させたのはすごい。
 - ・ 児童のアイデアや、やりたい気持ちを大切に、取り入れている様子が大変よく伝わってきた。
 - ・ 個々の児童の良さを最大限に引き伸ばし、生かしており大変すばらしい。
 - ・ 自分の興味をもったことをしっかり調べ、自分の頭で考えながら伝えるという力が育っている。
 - ・ 人前で伝えようと発表することに対して慣れてきている。
 - ・ 地域の課題や社会問題を考えている。
 - ・ 座談会をさらにやってみたい。

- (1) **アピールポイント（アイデアや工夫）：**
- (2) 職員のみならず児童とも目標を共有するために、職員のダイアログによって「育てたい資質・能力」を設定したことや、「学ぶことの楽しさ」「目標と評価のある教室」「対話のある授業をつくろう」といったフレーズを、職員研修、会議、全校児童朝会など、年間を通して何度も繰り返して示したこと。
- (3) 生き生きと学び表現する児童をめざし、また、対話のある授業や地域を活用した教育活動につなげていくために、「学ぶことの楽しさ」を味わわせる「自学」に全校児童で取り組んだこと。
- (4) 約20年続いてきた地域での稲作体験学習について、地域との単元開発会議の中で見直しを図り、発展的解消をしながら、児童と教職員が探求活動を行い易くしたこと。